

ローマ人への手紙に聴く^⑧

「すべての人が罪の下にある」

(ローマ3:9-20)

一、「罪」の性質

「罪」とは、人が神の前にあるべき姿になっていない状態です。ところが、自分に「罪」があることは、すなわち神の御思いから外れていることは、なかなか分かりません。どのような人が、自分には「罪」があると知るのでしょいか。それは主イエス・キリストに出会った人です。キリストに出会った時、自分は神の前にあるべき姿でない、自分は罪人であると知ります。ローマ人への手紙を開いてみますが、この手紙の著者であるパウロは、ユダヤ人でした。ユダヤ人と言えば、誇り高き人たちでした。「自分たちは律法を授かっている。自分たちは律法を通して神のことばを知っている。自分たちは神の御意思を行っている」という自負心を持っていました。特にパウロは、パリサイ派という律法を厳格に守ろうとするユダヤ人でしたから、「自分たちは、異教徒のような罪人ではない」という、人一倍強い自負心を持っていました。そのパウロがある時、「私は罪人のかしらです」(一テモテ1:15)と語るようになりました。もちろん、傲慢して語ったものではありません。「私は、神が望まれる姿から最

も遠い人間でした」「こんな私が、神のあわれみを受け、神の務めをする人間になりました」という意味です。

二、キリストに出会うとは

ユダヤ人であり、パリサイ人であったパウロは——元の名前は、ユダヤ人名でサウロといました——、教会を激しく迫害していました。そのサウロに、復活された主イエス・キリストが現れたのです。キリスト教徒を取り締まるために、エルサレムからシリアのダマスコに向かって途中のことでした。突然、天からの強い光に打たれ落馬してしまいました。その時サウロは、自分に語りかける声を聞きました。「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか」と。「主よ、あなたはどなたですか」と問いかけると、「わたしは、あなたが迫害しているイエスである」という声を聞きました。サウロは非常に混乱したと思われます。ですが、この出会いにより、思いが百八十度変えられました。それからしばらく経って、「イエスは神の子です。救い主です」と、ユダヤ人に語るようになりました。そして後には、異教徒に語るようになりました。

人が、自分は罪人である、すなわち神の前にあるべき姿でないと知るのには、聖書のことばを知っていれば分かる、というものでもありません。もしそ

であるなら、ユダヤ人は全員、「私たちは罪人です。私たちは神の前にあるべき姿になっていません」となったはずです。ですが、そうはなりません。むしろ「私たちはユダヤ人であって、異教徒のような罪人ではありません」となってしまう。人は、主イエス・キリストと出会った時に、それも十字架にかかり復活させられた主イエス・キリストに出会う時に、神と出会うようになります。主イエス・キリストと出会ったパウロは、後にこんなことを語っています。「私には、自分のしていることが分かりません。自分がしたいと願うことはせずに、むしろ自分が憎んでいることを行っているからです」(ローマ7:15)と。このことばは、パウロ個人のことであり同時に、主イエス・キリストと出会ったすべての人について言えます。すなわち、主イエス・キリストと出会った人が、以前の自分の姿を振り返ったときに、言えることばです。3章20節をご覧ください。後半の**「律法を通して生じるのは罪の意識です」**は、主イエス・キリストと出会って初めて分かることです。パウロがユダヤ人として律法に誇りを持っていたときには、思い浮かばない発想でした。

三、すべての人が罪の下に

9節をご覧ください。<ローマ3:9>パウロは、すべての人間が神のみこ

ろに適っていない、罪の下にあると語りました。そういうわけで、「あの人ははすぐれていて、それに比べて自分たちは劣っている」、反対に「自分たちはすぐれている。あの人は劣っている」と考えるのは、神の前にあるべき姿になっていないからです。すなわち、罪の下にあるからです。ですが教会に来て、あるいは聖書を読んで、自分は神の前にあるべき姿になっていない、自分は罪人であると知りますと変わります。なぜなら、罪の問題が解決されるからです。

パウロは、すべての人が罪の下にあることを、分かってもううために、聖書のことばを引用して語っています。それが、3章10節より18節までです。ここに書かれていることはすべて聖書、すなわち旧約聖書からの引用です。

私共は、これまでにどれだけ、神の御思いに適わないことを考え、口にしてきたことでしょうか。きょう開いた聖書のことばを聞いて、「神さま。申し訳ございません。おっしゃるとおりです。ほかの人が天国に行ったとしても、私は地獄に落ちる人間です。罪人の私をあわれんでください」と思われる方は、幸いです。その方に、主イエス・キリストはおっしゃいます。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます」(ルカ23:43)と。